



平成 22 年 1 月号 NO.10

小学部

年が明け 新しい年を迎え早 3 週間 挨拶が遅くなりましたが「あけまして おめでとうございます」。新年がスタートし 冬休みが終わり・・・三連休が終わり・・・ようやく生活リズムが戻ってきました。少々お疲れモードだった子ども達の表情も落ち着いてきたように思います。今年の始まりは大雪からのスタートでしたね。大変な年明けではありましたが過ぎてみれば大変ながらも楽しかった出来事に・・・
どんな出来事も振り返ってみれば良かった出来事になると信じて、今年も私たち職員一同、子ども達とそして保護者の皆さんと一緒に歩いていきたいと考えています。今年も宜しくお願いします。



今月のすがた



調理・五感刺激の療育プログラムである「つぼみ茶屋」のスタイルが変更となりました。初めての取り組みに少し緊張していた子ども達でしたが小学部の代表として 4 名の子が頑張ってくれました。一人一役をテーマに 会計 個数&取り分け・輪ゴム止め&受け渡しの販売を担当しました。また、立ちながらの取り組みが初！ 立って作業をする事がこんなに難しいのか？と思えるくらい集中力がなくフラフラな



小学生チーム VS 中高生チーム 違いに気づかれた方も多いのではないかと思います、中高生に「追いつけ追い越せ」で彼らを目指しながらこれからの取り組みを進めていき、子ども達の変化を見ていきます。

そして忘れてはいけないのが彼らを支えた裏方さん達 小学部の部屋でせっせっせと五平餅を焼いていたんですよ。子ども達の頑張りをみて頂くことが難しかったことが残念でしたが部屋の中では自分たちの役割分担を一生懸命こなしている子供の姿がありました。



その他にも 1 2 月は盛りだくさんの療育と行事がありました。年賀状の制作から始まってクリスマス会・年越しうどん作り、それに合わせて通常の療育（ADL 訓練・支払い訓練・基本療育・調理&五感刺激）と振り返ると本当に毎日が目白押し・・・でした。楽しみながらの活動にも療育としての意味を忘れないのがつぼみ流。



これらの活動を通して大事にしたいものは揺るぎません。どんな取り組みにも興味を持ち、意欲が持てること。その上で集中力・姿勢・視線・指先の技術習得・・・を考えています。でもやっぱり一番は子供のやりたい やってみたいという気持ちを育てる事。「好きこそ物の上手なれ」です。今年も頭を悩ませながら子供に喜んで取り組んでもらえる療育を作り出していきたいと日々模索中・・・

さてさて・・・親の見えていないところで本領発揮？ 保護者との連絡ノートに良く出てくる言葉 「家での姿と違う 学校の姿と違う」とあります。親には見せない顔があるようですね。取り組みの姿を写真に収めました。

たくさんの写真の中から子ども達の姿が感じていただけるものをピックアップしています



鏡餅作り



うどん作り



書初め



七草粥

この表情があるからこそ私達スタッフも頑張れます

移動支援

こんにちは！移動支援では、乗馬・自転車・プールを中心に子どもたちの身体と精神面でのバランスを図るように日々取り組んでいます。そこでよく感じることは、子どもたち自身が自分の身体の動かし方がとても不器用なこと。プールで思うように身体の力が抜けない、左右のバランスを保つ時にどう力を入れて抜くのが難しい・・・それでも取り組もうとする気持ち、何度も挑戦する気持ちを個別でスタッフがつくことで育めるように子どもの側と一緒に取り組んでいます。そのため一歩進む事がとっても嬉しい！のです。

今回は身体の不器用さについてのお話。一度お家で朝起きる時の子ども達をよ～く見てください。そして私たちがいつも起きる時の動きと何が違うか、子どもたちが起きる方法で起き上がってみてください。身体をころんと回す時にどの部位をどう使うのかが分からないために起きること一つでも必要以上の力を使っていることもよくあるそうです。朝起きるだけで力を使いすぎて疲れてしまう・・・なんて大変ですよ。そしてどうしたら、最小限の力で身体を動かして起きられるのか？そのためにどんな体操が必要か？を考え、移動支援で取り組みたいと思っています。

スタッフ紹介



移動支援
平野千晴先生

一般社団法人光陽福祉会 局長就任おめでとうございます

～事務局長就任あいさつ～

浅野尚美は1月1日付け辞令交付により、一般社団法人光陽福祉会の事務局長に就任することになりました。会長と統括そして私の三人で始まったサポートセンターつぼみ。法人を独立させ、4月には20人規模の職員体制になります。どんなに、法人が大きくなろうとも、子ども一人ひとりあつての光陽福祉会です。子どもたちの将来をしっかりと背負い、会長と統括と三人一却で歩んでいきたいと考えています。今後ともご支援宜しくお願い申し上げます。

Kのひとこと

母子通園の女神、井原先生は見るからに穏やかで、優しいけど・・・？がつく（笑）事務所での会話。浅野局長「関西はやっぱ暖かいの？」k「そりゃ暖かいよ。こたつもないくらいだよ。ねっ井原先生」井原先生「うーん？私大分なんで・・・暖かいですよ」浅野局長「やっぱり大阪は肉まんおいしいの？」k「大阪と言えば55何かやろー。ねっ井原先生」井原「いや、ちょっとわかりません」そう。井原先生は、無意識にkを否定するんです。そしてとんちんかんでおちょこちょい。テンポの早いKに対し、かなりの天然との戦いは、理解不明。勝敗も不明。でも、子どもたちを真直ぐ肯定する井原先生はやっぱりつぼみの女神なのかもしれない。